第 3 章

ユニ・スポ体験での児童の意識変容調査

1　チャレンジ！ユニ★スポについて

「**チャレンジ！ユニ★スポ**」とは、“健常者と障害者の相互理解促進”や“共生社会実現への貢献”を目的に、“静岡県内の特別支援学級がある小・中学校の児童・生徒・教員”を対象に障害者スポーツ「ボッチャ」をユニバーサルなスポーツ教材と位置づけた体験授業で、当財団が（公財）静岡県障害者スポーツ協会、筑波大学体育系　准教授　齊藤まゆみ氏の協力や指導を得て 2019 年より実施している事業である。

本事業ではボッチャ体験会に加え、①障害者スポーツに関する知識の提供（学習機会）、②スポーツが苦手な人に対するスポーツの有用性、価値への理解浸透、意識変革、③スポーツ普及を通じた障害者への理解促進、偏見などの減少、④社会的価値の醸成（学術的価値）を有するプログラムとしている。

2019 年度は、静岡県内の小・中学校から全 15 校、約 1200 名の児童・生徒および教員が参加した。実施状況については、当財団発行の“2019（令和元）年度　障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究”報告書を参照いただきたい。
https://www.ymfs.jp/project/culture/survey/013-social-environment/

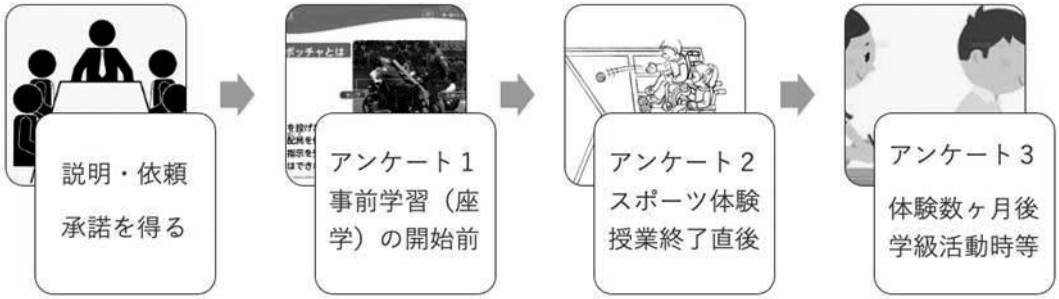
2　目的

本調査は、2020 年度より順次施行される新しい学習指導要領の理念を実現し、スポーツを通した共生社会等を実現するための教育内容検討基礎資料を得ることを目的とした。新学習指導要領にはパラリンピック教育が明示され、児童生徒の意識のみならず多様な行動変容につながるような教育を進めることとなっている。そこで「チャレンジ！ユニ★スポ」の教育内容で子どもたちの意識や行動がどのように変容するのかを、先行研究（澤江ら 2018, 宮原 2017,齊藤ら 2016）から導いた仮説をもとに質問項目を設定し実施した。

3　方法

事前学習（座学）とボッチャ（体験）を通して、子どもたちの障害や障害者スポーツ等に関する意識や視点がどのように変化するかを研究仮説に基づいて分析した。

調査の流れを図に示した。



まず、参加校において説明と依頼をし承諾を得た。次に事前学習前の意識調査（アンケート 1 回目）を実施し、のちに各校において事前学習を実施した。その後ボッチャを教材とした体験学習を実施し、体験学習終了時に意識調査（アンケート 2 回目）を行った。さらに、体験学習後数か月経過後に意識調査（アンケート 3 回目）を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で 3 回目の意識調査が実施できない参加校についてはアンケート 2 までを回収し、全体の分析対象とせず、学校別の分析とフィードバックを実施した。

3．1　参加者

2019 年度の「チャレンジ！ユニ★スポ」に応募し、調査協力の同意を得た静岡県内 15 校の児童生徒 1143 名が参加した。

3．2　アンケート調査

アンケートは、①「事前学習前」用、②「体験会参加直後」用、③「体験会から２～３か月経過後」用の 3 種類であるが、いずれも共通する調査項目を設定している（表 3-1）。同一対象者へ期間中に 3 回の回答を依頼した（調査用紙は巻末付録参照）。

アンケート実施にあたっては、以下について補足説明を加えた。

・アンケートへの協力は強制でなく任意である。

・回答者コードは、外部には回答者を特定できない配慮を加えた個別識別コード設定となっており、児童生徒自身で設定する仕組みである。記入は児童生徒の意思を尊重するが、可能な範囲で協力してほしい。

・調査結果発表時に回答者個人を特定する情報は一切含まれない。

・「必ず３つ選んでください」と指示している一部の設問では、児童生徒からの質問が想定される。例えば、「２つしか該当項目がない。すべてが当てはまる。どれも当てはまらない」などである。その場合は「自分の気持ちに近い順に上から３つ選んで〇を」という回答を教師に依頼した。

表 3-1　調査項目と実施時期

質問項目	事前	直後	数か月後
障害のある人との距離感	○	○	○
東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの興味	○		
知っている障害者スポーツ種目	○		
ボッチャの感想		○	
障害者イメージ	○	○	○
障害者スポーツイメージ	○	○	○
アダプテッドの主体性	○	○	○
アダプテッドの適用度	○	○	○

３．３　事前学習

事前学習には、国際パラリンピック委員会の公認教材である『I'm POSSIBLE（アイムポッシブル）』を使用した。教材についてはスライド、ワークシート、動画を提供し、協力校に実施を依頼した。なお、教材はいずれも TOKYO 2020 for KIDS ウエブサイト（https://education.tokyo2020.org/jp/）の東京 2020 教育プログラムからダウンロード可能である。

表 3-2　事前学習で使用したスライド

スライド
①　『パラリンピックってなんだろう？』（必須）
②　「ボッチャをやってみよう』（必須）
P13 まで座学にて依頼　P14 以降は体験会にて説明
③　「公平について考えてみよう」（任意）
④　「東京 2020 パラリンピックを楽しもう」（任意）

表 3-3 事前学習で使用した動画

動画
① **『リオ 2016 パラリンピックダイジェスト（3 分 34 秒）』（必須）**
② 「ボッチャ競技説明（2 分 38 秒）」（任意）
③ **『ボッチャをやってみよう（5 分 10 秒）』（必須）**
④ 「（教員用）ボッチャ授業の進め方（4 分 53 秒）」（参考）

4　結果・考察

4．1　障害のある人との距離感

ここでは「障害のある人と仲良くできる？」「障害のある人と一緒にスポーツできる？」「一緒にスポーツすれば障害のある人と友達になれそう？」という 3 つの質問に「はい」「いいえ」「わからない」で回答してもらった。図 3-1 はその結果を小学生と中学生でそれぞれ示したものである。

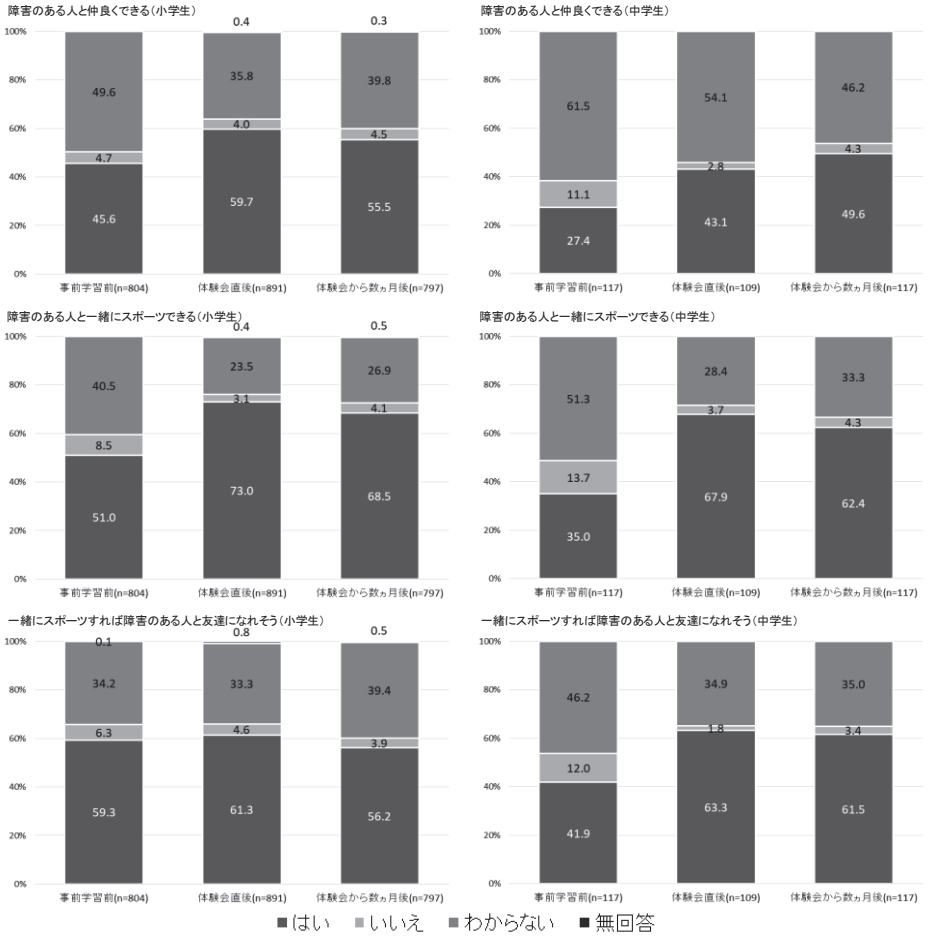


図 3-1 障害のある人との距離感

いずれの項目も、実施前よりも実施後に「はい」の回答割合が増え、一定期間を経過してもその意識が定着していることが示された。回答に変化を示したのは、「わからない」と回答していた児童生徒であり、事前学習とボッチャというスポーツの体験をすることで障害のある人との具体的な関わり方のイメージが持てるようになったと考えられる。また、「いいえ」という回答も一定の割合で存在することが示された。

4．2　東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの興味

東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの興味について、どちらも興味がある、オリンピックだけ興味がある、パラリンピックだけ興味がある、どちらも興味なしからの選択回答とした（図 3-2）。

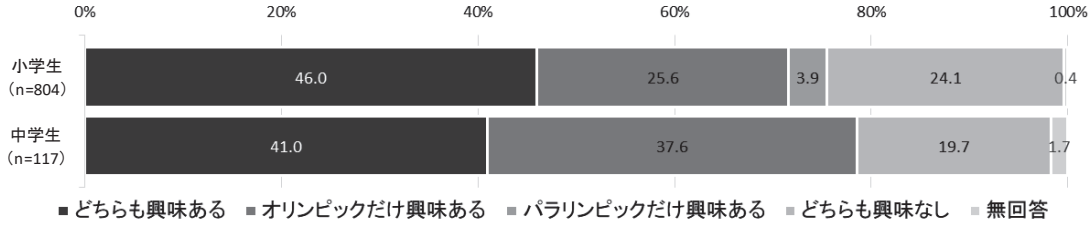


図 3-2　東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの興味

小学生、中学生ともに「どちらも興味がある」が最も多く、次いで「オリンピックだけ興味がある」という結果であった。また、「パラリンピックのみ興味がある」という回答は小学生にだけ見られ、「どちらにも興味なし」も 2 割程度示された。

４．３　知っている障害者スポーツ種目

自由記述とした。車いすバスケットボール、ボッチャなどが挙げられており、無回答は381 件だった（表 3-4）。

表 3-4　知っている障害者スポーツ種目（自由記述）

競技名	件数（n921）
車いすバスケットボール	332
ボッチャ	262
サッカー	61
シッティングバレーボール	61
陸上競技	51
車いすテニス	49
競泳	33
自転車	26
車いすラグビー	23
卓球	20
ゴールボール	18
マラソン	12
アーチェリー	9
トライアスロン	9
バドミントン	7
その他	48
無回答	381

４．４　ボッチャの感想

体験会直後の感想として、思っていたより面白かった、思っていたとおりだった、思っていたほど面白くなかった、面白くなかったという面白さを問う選択肢と「友達とボッチャをやってみたい」「ボッチャ以外の障害者スポーツをやってみたい」という興味の広がりについての選択肢を設定した（表 3-5）。

表 3-5　ボッチャの感想

上段：実数 下段：割合（%）	全体	思っていたより面白かった	友達とボッチャをやってみたい	ボッチャ以外の障害者スポーツをやってみたい	思っていたとおりだった	思っていたほど面白くなかった	面白くなかった	無回答
全体	1000	876	676	675	94	22	19	6
	100.0	87.6	67.6	67.5	9.4	2.2	1.9	0.6
小学校	891	777	617	624	83	22	19	6
	100.0	87.2	69.2	70.0	9.3	2.5	2.1	0.7
中学校	109	99	59	51	11	−	−	−
	100.0	90.8	54.1	46.8	10.1	−	−	−

複数回答の結果、思っていたより面白かった（全体 876 件,87.6%）が最も多く、次いで友達とボッチャをやってみたい（676 件,67.6%）、ボッチャ以外のスポーツをやってみたい（675 件,67.5%）であった。事前学習と体験会を通してボッチャの魅力を伝えることができたこと

が示された。しかし意識変容が行動変容を促す結果につながったかについての検証ができていない。その後児童生徒が実際にボッチャを実施した、ボッチャ以外のスポーツについて自ら調べた、ボッチャ以外のスポーツを実施した等の行動変容が生じたかについて追跡調査ができれば興味深い。

４．５　障害者イメージ

障害者に対してどのようなイメージを持っているかを把握するために、「障害」から連想する用語として「困っている、個性的、手伝いが必要、不便なことがある、その人らしさ、リハビリ、自由に動けない、できることがある、車いす」の選択肢から 3 つを選択してもらい、3 回の変化を見た。回答者ごとに選択肢の組み合わせをもとに得点化したのち、小学生と中学生別に平均値で比較検討した。数値はポジティブなイメージが高い方から 3,2,1,0 となる。その結果、小学生は事前学習前には 0.56±0.80（平均値±標準偏差）であったが、体験会直後には 0.71±0.89 とポジティブな方向にイメージ変化があり、その傾向が数か月後でも 0.71±0.89 と継続することが示された。しかし中学生では事前学習前に小学生よりも高い数値（0.83±0.87）を示しており、変化は有意ではなかった（図 3-3）。

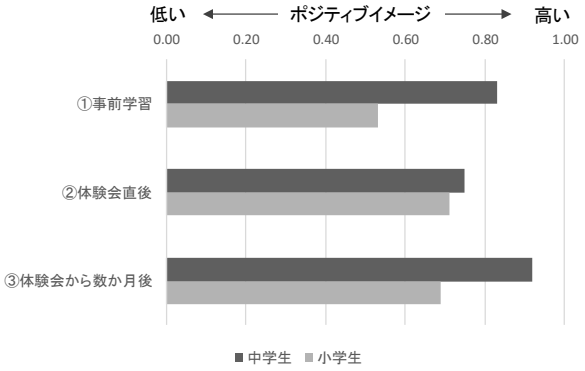


図 3-3 「障害」から連想するイメージ

４．６　障害者スポーツイメージ

障害者スポーツから連想するイメージについて、「楽しそう、大変そう、チャレンジしてみたい、不便、激しい、障害者のためのもの」という選択肢より 3 つを選択してもらい、3 回の変化を見た。回答者ごとに選択肢の組み合わせをもとに得点化したのち、小学生と中学生別に平均値で比較検討した。数値はポジティブなイメージが高い方から 3,2,1,0 となる。その結果、小学生は事前学習前（1.34±0.78）に比べ体験会直後（1.56±0.74）にポジティブなイメージ変化があり、その傾向が数か月後（1.53±0.77）まで継続することが示された。

また、中学生では事前学習前（1.36±0.87）に比べ体験会直後（1.43±0.76）、数か月後（1.58±0.78）とポジティブなイメージ変化が示された（図 3-4）。

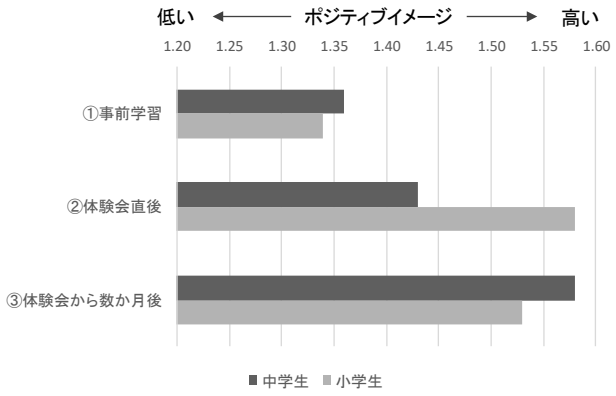


図 3-4 障害者スポーツのイメージ

４．７　アダプテッドの自発性

障害のある友達とスポーツをするために必要なものとして、「障害者スポーツに詳しい先生やコーチ、スポーツのルールを変えること、障害者スポーツの本や資料、障害のある友達と相談すること、障害者スポーツ専用の道具や場所、サポートすること」という選択肢より 3 つを選択してもらい、3 回の変化を見た。回答者ごとに選択肢の組み合わせをもとに得点化したのち、小学生と中学生別に平均値と標準偏差をもとに比較検討した。自らが主体的に関わっていこうとする意識をアダプテッドの自発性と捉え、数値は自発性が高い方から 3,2,1,0 となる。その結果、小学生、中学生ともに事前学習前（平均値±標準偏差；小学生 1.41±0.67, 中学生 1.38±0.79）、体験会直後（小学生 1.48±0.71, 中学生 1.46±0.76）、数か月後（小学生 1.56±0.67, 中学生 1.54±0.69）と自発性が高まる傾向を示した（図 3-5）。

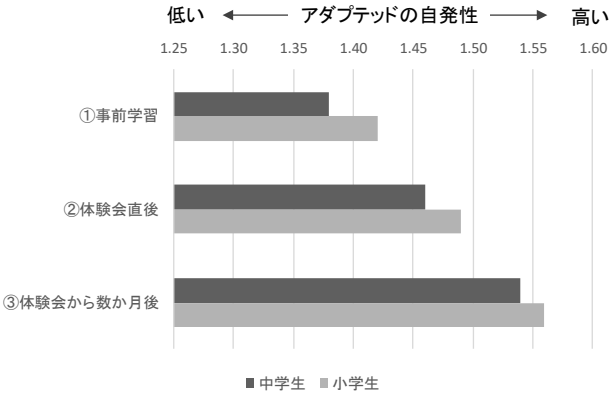


図３-５　障害のある友達とスポーツをするために必要なもの

４．８　アダプテッドの適用度

障害のある友だちとスポーツを楽しむために必要だと思うことを、体育授業での場面設定をもとに「友だちがうまくなるように練習をがんばってもらう、友だちも楽しめるようにルールを変える、あまりボールを渡さないようにしてあげる、みんなが車いすにのって車いすバスケットボールをする、無理をさせず得点係や応援で頑張ってもらう、ボールを使いやすいものに変える」という選択肢から３つを選んでもらい、３回の変化を見た。回答者ごとに選択肢の組み合わせをもとに得点化したのち、小学生と中学生別に平均値と標準偏差をもとに比較検討した。一緒に楽しむための配慮や工夫を必要な場面で適用しようとする意識をアダプテッドの適用度と捉え、数値は適用度が高い方から 3,2,1,0 となる。その結果、事前学習前（平均値±標準偏差；小学生 2.35±0.70, 中学生 2.50±0.73)、体験会直後（小学生 2.49±0.69, 中学生 2.51±0.69)、数か月後（小学生 2.54±0.68, 中学生 2.38±0.89）であった。アダプテッドの適用度に関しては、事前学習前から高い値を示したことから、本調査で用いた設問の場面設定を修正していくことが今後の課題となった（図 3-6)。

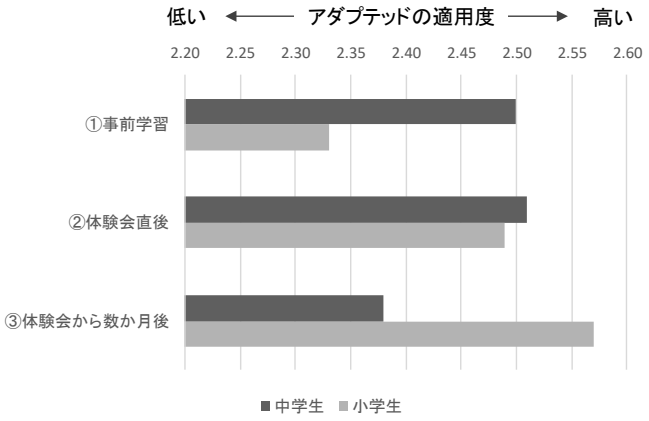


図 3-6　車いすの友達とバスケットボールを楽しむために必要だと思うこと

５　教員の反応

本調査に参加した教員を対象にアンケート調査を実施し、12 校から回答を得た。調査項目は、事前学習教材について、児童生徒の変化について、ユニバーサルスポーツの有効性についてである（巻末資料参照）（表 3-6)。

事前学習教材については、使いやすさや児童生徒の理解という面で、どちらともいえないという回答が一定の割合で示されていることから、対象児の学年や内容についての検討を進めていきたい。

児童生徒の変化については、体験会そのものは好評であるが、教師が児童生徒の行動変容として実感できるまでには至っていない。

ユニバーサルスポーツとして共生社会の実現への有効性については、肯定的に捉えられていた。

表 3-6 事前学習・児童生徒の変化・ユニバーサルスポーツの有効性

調査項目	回答実数（n12）	思わない	やや思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
＜事前学習＞						
事前学習教材は使いやすかったですか？		0	0	2	6	4
児童生徒は理解できているようでしたか？		0	0	3	4	5
＜児童生徒の変化＞						
ボッチャ体験会の内容は期待と合っていましたか？		0	0	0	1	11
スポーツの苦手な子も楽しく参加できていましたか？		0	0	0	1	11
スポーツの苦手な児童生徒が、またスポーツをやりたいと思うきっかけとなった。		0	0	2	5	5
体験会をきっかけに、日頃交流の少ない友達間や男女間での会話が増えた。		0	1	4	4	3
ケガや病気をした友達に対して、手助けをしようとする児童生徒が増えた。		0	0	9	2	1
パラリンピックを見たい（応援したい）という児童生徒が増えた。		0	0	1	6	5
＜ユニバーサルスポーツの有効性＞						
ボッチャ等のユニバーサルスポーツは、社会が求める共生社会実現に向けたスポーツ活用策として有用だと思われますか？		0	0	0	2	10

また、本調査研究以降に各校におけるボッチャなどのユニバーサルスポーツの実施状況と実施するにあたっての阻害要因（課題や解決すべき問題点）について回答してもらった。

実施したのは３件であり、実施内容はボッチャを複数回、ボッチャを１回、ゴールボールを１回であった。一方で、実施していないが６件あり計画中が３件であった（表 3-7）。

表 3-7 その後のユニバーサルスポーツ実施状況

	回答実数（n12）	実施した	実施していない	実施計画中
その後のユニバーサルスポーツ実施状況		3	6	3

実施するにあたっての阻害要因としては、用具・施設がないが７件とすべての回答者が指摘した。また用具を揃えるための予算措置・費用がかかる点が３件、ルールを知っている指導者がいないことも１件回答があった。ボッチャをはじめとするユニバーサルスポーツの有効性が評価される一方で、専門の用具がないことが実施の阻害要因となることが示された。車いすや特別な用具を使うことに特徴づけられるスポーツの場合は、保管場所やメンテナンス、予算等を考慮すると、各校で用具を揃えるよりも、ユニバーサルスポーツ拠点として地域ごとに用具を揃える拠点校を設け、単元計画に盛り込みながら計画的に用具を活用していく拠点校方式や、静岡県障害者スポーツ協会との連携で普及プログラムを作成して

いくことも現実的であろう。もちろん教育予算の獲得や補助金事業等で企業や地域資源と連携していくことも有効である。

本調査を実施するにあたっては学校関係者の協力が不可欠である。事前学習では、教員が配布された教材をもとに展開することから教員の教材観や扱い方も重要な要素である。ボッチャをはじめとするスポーツには、「アダプテッドの視点」が含まれる。児童生徒のみならず教員もそれを理解し、障害者スポーツ指導員による「出前授業・出前講座」から各校の教員による「自前授業・自前体験会」が展開できるよう、教員対象の研修も同時に進めていくことが求められる。

6　まとめ

本調査からは、事前学習、体験、振り返りという一連の学習内容が小学生においては障害のある人に対するイメージをポジティブな方向に変容させることが示された。また、中学生においては障害者スポーツのイメージをポジティブな方向に変容させることも示された。ボッチャを教材としたユニバーサルスポーツが、スポーツを通した共生社会の実現という教育目標に合致した児童生徒の意識変容を促進する可能性も示唆されたが、行動変容をもたらすものであるかは今後の検証が必要である。一方で用具不足や予算の問題が阻害要因として示された。これらの課題に対しては拠点化・連携・出前から自前へという視座で解決していくことが望まれる。

本調査にご協力いただいた児童生徒の皆さん、事業の実施にご協力いただいた学校関係者ならびに、静岡県障害者スポーツ協会にお礼申し上げます。

（齊藤まゆみ）

【2020 年度の“チャレンジ！　ユニ★スポ”の実施結果について】

2019 年度にケーススタディーとして開始した“チャレンジ！　ユニ★スポ”であるが、生徒・先生からの感想やアンケート回答等から、ボッチャ体験を通じた障害者への理解促進やスポーツが苦手な人に対する有用性などが確認できたことから 2020 年度も公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会（以下、「県協会」）の協力を得て継続実施した。

2020 年度は年初より新型コロナウイルスが全国に広がっていったため、実施予定校とは個別に開催時期や実施方法とともに感染防止対策について打ち合わせを行い無事に開催を終了することができた。特に感染対策については、県からのガイドラインを基本に、県協会、講師をしていただいた障害者スポーツ指導員、開催校の先生方から現場視点にての感染防止のアイデアもいただき、順次取り入れた。これについてはご参考として以下（P84）にいくつかをご紹介させていただく。

最終的に今年度は 12 校で開催し、約 860 名の参加者となった。昨年同様に学術的調査（意識変容調査）も実施することができ、昨年度の調査と合わせてより多くのデータが集まることで、客観的な効果が見えてくると期待している。

最後に今年度の開催にあたって多岐にわたりご協力をいただいた静岡県、県協会、静岡県障害者スポーツ指導者協議会および指導員の皆様、齊藤先生をはじめとする当財団障害者スポーツ・プロジェクトメンバー、そして本活動にご理解ご協力いただいた静岡県内の学校関係者の皆様にお礼申し上げます。

【活動結果】

	日程	学校名	参加者数		
			児童生徒（特別支援対象児含む）	教員	合計
1	9 月 3 日（木）	袋井市立袋井西小学校	76	3	79
2	9 月 8 日（火）	菊川市立河城小学校	37	4	41
3	9 月 30 日（水）	伊東市立東小学校	40	5	45
4	10 月 14 日（水）	磐田市立磐田西小学校	95	5	100
5	10 月 20 日（火）	磐田市立豊田東小学校	75	2	77
6	10 月 27 日（火）	袋井市立山名小学校	145	4	149
7	11 月 4 日（水）	掛川市立中小学校	22	2	24
8	11 月 10 日（火）	浜松市立笠井小学校	81	3	84
9	11 月 12 日（木）	御殿場市立朝日小学校	78	4	82
10	11 月 13 日（金）	静岡市立由比小学校	43	4	47
11	12 月 4 日（金）	浜松市立追分小学校	54	8	62
12	12 月 18 日（金）	伊豆の国市立大仁小学校	68	3	71
合計			814	47	861

【感染防止】

1）フェイスシールドの着用

体育の授業においては、熱中症防止ならびに密を避ける種目の選択にてマスク着用はしていない学校が多いようであるが、ボッチャ体験は屋内（体育館）で開催されること、そして面白さから声をあげる児童も多いことなどを考慮し、フェイスシールドの着用提案を行った。各学校の感染防止対策を基本として、希望校にはフェイスシールドを提供し着用していただいた。フェイスシールドを付けるという珍しさもあってか抵抗を感じる生徒は少なかったようである。なお、一部の学校ではマスクの着用のみ、またマスクとフェイスシールドの併用という所もあった。

2）フラフープの活用

先生から提案をいただいたアイデアとして、生徒間の距離を保つためのツールとしてフラフープの活用がある。参加した児童は小学校４年生が多く、友達と集まっておしゃべりがしたい年代である。これを避けるため投球順番待ちではフラフープの中にいることにし、密集を避けるようにした。

3）こまめな手の消毒

児童は 1 回投球が終わったら、その都度手の消毒を実施するようにした。各コートに消毒スプレーを準備して、指導員（もしくは指導員補助）が児童の手に塗布。当初はかなり時間がとられると危惧していたが、実際にやってみると進行に影響なく実施することができた。また、体験会終了後、用具の消毒も実施した。

4）指導員およびスタッフの感染防止対策

多くの児童と向き合う指導員と補助スタッフについては、以下の感染対策を実施した。

・体調チェックシート（P86 参照）に基づき、毎日の体調および体温を記録していただいた。体験会の開催 2 週間以内に体調不良や発熱があった場合は参加を見送っていただく運用としたが、幸い本年度は該当する指導員には発生しなかった。また、体験会終了後も継続してチェックシートに記入いただくことで、その後の状況も追跡できるようにした。

・うつさない、うつされない、の徹底のためマスクとフェイスシールドの併用により、より安全な運営を目指した。課題としては、マスクにより声が通りにくくなること、冬場になるとシールド内が曇りやすくなること（特に眼鏡着用の人）がある。

・体験会実施中の密を回避することに注意して指導を行った。特に、児童に対する説明や指導にあたっては、児童が密集しないように気を付けながら進めた。例えば、どちらのボールがジャックボールに近いかなどを見る場合、昨年度までは生徒みんなを集めて見てもらっていたが、本年度は各チームの代表２人に順番で確認をしてもらうなどの方法をとった。

X 月

体調チェックシート

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ユニスポ等派遣事業実施にあたり、派遣指導員の皆様には新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、毎日の体調チェックをお願いします。

症状リスト
①平熱を超える発熱　②咳　③のどの痛み　④倦怠感（だるさ）　⑤息苦しさ　⑥嗅覚や味覚の異常
⑦その他（具体的症状は各日の欄にご記入ください）

毎日の体調を記入してください。

記入日	体 温	体 調	不調の場合の具体的症状 上記 症状リストの番号 ①～⑦をご記入ください。	記入日	体 温	体 調	不調の場合の具体的症状 上記 症状リストの番号 ①～⑦をご記入ください。
1 日	℃	□良好 □不調		15 日	℃	□良好 □不調	
2日	℃	□良好 □不調		16 日	℃	□良好 □不調	
3日	℃	□良好 □不調		17 日	℃	□良好 □不調	
4日	℃	□良好 □不調		18 日	℃	□良好 □不調	
5日	℃	□良好 □不調		19 日	℃	□良好 □不調	
6日	℃	□良好 □不調		20 日	℃	□良好 □不調	
7日	℃	□良好 □不調		21 日	℃	□良好 □不調	
8日	℃	□良好 □不調		22 日	℃	□良好 □不調	
9日	℃	□良好 □不調		23 日	℃	□良好 □不調	
10 日	℃	□良好 □不調		24 日	℃	□良好 □不調	
11 日	℃	□良好 □不調		25 日	℃	□良好 □不調	
12 日	℃	□良好 □不調		26 日	℃	□良好 □不調	
13 日	℃	□良好 □不調		27 日	℃	□良好 □不調	
14 日	℃	□良好 □不調		28 日	℃	□良好 □不調	

※派遣日当日は、チェックシートを持参ください。
ご協力よろしくお願いいたします。

（公財）静岡県障害者スポーツ協会
TEL：054-221-0062
メール：s-spokyo@za.tnc.ne.jp

【活動の様子】

【参加した児童の感想文より】

ボッチャをやっていて、ピンチだったときに、ぎゃくてんできて、すごくうれしかったよ。はじめて、ほんもののボッチャをやれて、すごくうれしかったし、しょうがいがある人と、いっしょにボッチャをやってみたいと、思ったよ。ボッチャのボール、すごくおもかったよ。話をきいていたら、家でもボッチャのボールができるって、きいたから、家でつくって、家でもボッチャをやってみたいと、思ったよ。わたしは、いっぱい、ボッチャのことをしれて、うれしかったよ。

わたしはやっていて、思ったんだけど、しょうがいがある人は、ボッチャをやっていて、すごいと、思ったよ。ほんとうは、オリンピックとか、しかぎょうみがなかったけど、パラリンピックも、みてみたいなって、思ったよ。はじめて、ランプをつかってやってみたけど、しょうがいがおもい人には、ランプをつかってやるってはじめてしったよ。すごくうれしかったよ。家にかえったら、おうちの人にも、いったよ。おうちの人も、「やってみたいなボッチャって」いっていたよ。いっしょにたいけつしてみたいよ。ボッチャは、しょうがいがある人にも、スポーツをたのしんで、やってもらいたいから、ボッチャが、あるんだって、思ったよ。また、ボッチャをやって、みたいです。

わたしはボッチャをたいけんしてしょうがいしゃでも楽しめるんだなと思いました。パラリンピックを見てみたいと思じました。お家でもお父さんとお母さんに話したら、「すごいね、よかったね。」と言ってくれました。ボッチャはしょうがいしゃでもしょうがいがない人でも楽しめるスポーツだったからとっても楽しかったです。負けたらちょっとくやしいけどかったらとってもうれしいです。とても楽しかったからお家でも家族でやってみたいと思いました。

わたしは、しょうがいがある人のためのスポーツ(パラスポーツ)にきょうみを持ちました。ボッチャしょうんどうが苦りてな人でもたのしめる物だと思います。わたしはもっともっとパラスポーツをしりたいです。ぼくんとパパとママとやってみます!!

ボッチャをやってみてたのしかったしいろい
ろれんしゅうでやってないこともやったから
ちょっとしんぱいしました。おかあさ
んにいった。だけどボッチャってなにって
きかされましたでじゅうぶんでいってみたら
目がみえないひともあしがうごけないじゅうな
人でもできるボッチャっていったらだれで
もかんたんにできちゃうのっていったから
わたしはこうこたえました だれでもでき
る球ポーツだっていいました。でも
ボッチャはおじいちゃんもおばあさんもみ
んなできるなんてしらなかったです。も
っとボッチャのことをもっとしりたいです
またいっぱいやりたいです。
◎せかいじゅうのひとができるんだとおも
った。

ボッチャは思ったよりいっぱいルールがありました。ぼくは最初むずかしそうと思ったけれどやって見たらすごくおもしろかったです。これならしょうがい者でもボッチャができるなと思いました。だから、ぼくはヨーロッパの人たちはしょうがい者でも楽しくできるスポーツを考えてやさしいなと思いました。しょうがい者のためのルールがいろいろありました。たとえば手が不自由な人は足でけったりそういうルールがあるとだれでも楽しくできます。ボッチャだけじゃなくて車いすバスケやテニスとかいろいろしょうがい者がやるスポーツがあるからしょうがい者にとってうれしいかもしれないと思いました。

○ぼくは、じっさいボッチャをやってみて
しょうがいのある人でもしょうがいしゃ
じゃなくても、これならだれでもたの
しめるきょうぎだしボッチャをおしえて
くれた人はボッチャをたくさんしってしまいが
ら、がんばっている。だから、ぼくは、
ボッチャをやってみてよかったとおもった。

しょうがいしゃの人がやるスポーツ
があるんだなと思いました。
ボッチャをやる事になって少しできな
いんじゃないかとふあんだったけど
やってみたら楽しかったし負けた時
くやしかったけどボッチャをやってよか
ったなと思いました。自分としては、
いろいろな事を学んだなと思いまし
た。たとえばしょうがいしゃのためにいろ
いろ工夫してあって自分じゃないだれか
のためにという事を学べました。

わたしは、ボッチャをやって楽しかったです。
かぞくみんなに、自まんしてはべんきょう
でしらべて自学に書き、なつめ先生とや
ったにせボッチャでもすごく楽しかったです。
ほんものボッチャでは、先生もやさしくおし
えてくれて、たすかりました。もしこわい先生だっ
たら、もう、え彦頁で、やれなかったと思います。
でもやさしい先生がいてくれた
から、え彦頁で楽しくできました。さいしょ
は、うまくできなかったけどだんだんな
れてきて、もっともっと楽しくできました。ボールの作り方ももら
たのでこんど作ってみます。すごく楽しかっ
たからちがうものもやりたいです。

ぼくは、ボッチャをできてとてもうれしかったです。
負けても楽しくてぎくてんしたときはとてもうれしかったです。
ボッチャって楽しくて、こんなやり方だとは知りませんでした。
あの2時間があっという間にすぎていってもっともっとやりたかったです。
ぼくはボッチャがとても好きになりました。
教えてくれた方にもう一度「ありがとうございます」といいたかったです。

わたしはボッチャをはじめてやりました。それで相手のチームとやった時、0点と3点でまけちゃったけどすごくものすごくたのしかったです。
またやりたいなと思いました。
さいしょはボッチャってなんだろう？
て思ったけどルールもよくわかったからもっとボッチャのことがしりたいなー。と思います。
ボッチャはしょうがいのある人までたのしめるからいいスポーツだとかんしんしました。

わたしは、しょうがいしゃスポーツは、
しょうがいしゃの人のためにもあるし、
しょうがいのない人もたのしめて、みんな
えがおになって負けた人もかった人も、
みんなえがになっていて「すごい」と思い
ました。ボッチャのほかにも、
すいえいや、テニス、はしりはば、とび、
とかいろいろあったのでもっとしりたいです。
しょうがいしゃの人もタクさんいから、
しょうがいしゃスポーツがあると思い
ます。

しょうがいがある人も楽しめる
スポーツだと思いました。
わたしも「ボッチャ」をやってみて
すごく楽しいなぁと思いました。
だから「ボッチャ」を体けんできて
よかったです。
わたしは「パラリンピック」ということ
を知りませんでした。「ボッチャ」とい
うきょうぎを聞いたこともありません
でした。でも「ボッチャ」を体けん
しておもしろかったし、楽しかったです。
「パラリンピック」ってこんなことする
んだぁと思いました。
わたしは「ボッチャ」をもっとやって
みたいし、「パラリンピック」に
きょうみをもちました。
「ボッチャ」楽しかったです。

【今後に向けて】

昨年度実施した意識変容調査の結果からも事前学習や体験会を通して、年齢や性別、運動能力、障害の有無にかかわらず、誰もが仲良く相互理解を深めることのできるユニバーサルな価値を有することが確認できた。一方、どの学校も継続して体験会を実施したいと思ってはいるものの、用具がない、簡単に借りられる所もない、用具が高価であり簡単に購入できない、指導者が身近にいない等の理由から、その後継続して実施した学校は数校に留まっている。安価で手に入れられる用具の開発により、児童が日常的にユニバーサルスポーツができるようになることを期待したい。当財団としても、今後もさらなるプログラム内容の充実を図っていきたいと考えている。

（大庭義隆）